

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 調布市立布田小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 1 8 2 - 0 0 2 3  
東京都調布市染地 1 - 1 - 8 5

E-mail fuda-sho@chofu-schools.jp  
Website http://www.chofu-schools.jp/fuda-sho/

幼児児童生徒数 男子 2 2 3 名 女子 2 2 4 名 合計 4 4 7 名  
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 1 2 歳

## 2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 3 0 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、児童の実態や地域、保護者の願いや期待を踏まえ、「知恵と勇気と優しさ」をもった児童の育成を推進し、この姿勢を校樹である「梅」になぞらえ、知恵と勇気と優しさ＝「梅の心」としている。

また、本年度は学校教育目標を次のように設定し、児童の育成を目指した。

○よく考え くふうする子

○なかよく 助け合う子

○明るく 元気な子

あらゆる差別の撤廃や人権の尊重を推進するための教育を行うことにより、平和の実現に寄与するという「ユネスコスクール」の理念に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を基調とした体験的な持続可能な開発のための教育を推進している。

本年度は、

①多摩川流域にある学校として、環境教育の推進

②防災に関する命の授業、並びに地域と連携した避難所開設訓練

③地域と連携した食育教育 を行った。

① チャレンジ多摩川(環境教育)

多摩川流域の学校として、4年生が総合的な学習『チャレンジ多摩川』として取り組んでいる。春と秋に植物や動物を観察したり、夏には川の中に入って、川の中の小さな生き物を探したりした。また、多摩川の石の観察や、冬には野鳥観察も行った。1年を通して、多摩川と関わって学習を進めている。観察だけでなく、多摩川を守るために活動していらっしゃる方の話も聞き、環境を守る大切さを学んでいる。

② 調布市防災教育の日(防災)

東日本大震災を教訓として、「命の尊さ」について学ぶこと、「自らの命は自らが守る」という意識を高めるために、平成24年度から行っている。今年度、防災に関する命をテーマとした授業を行うとともに、地区協議会と連携して避難所開設訓練を行い、防災の意識を高めている。

③ 地域と連携した食育教育

地域の農家の方にご協力をいただき、米作りを行っている。粃まきから稲刈りまでの活動だけでなく、収穫した米を給食で提供し、食材を大切にしようとする意識を育てている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

水辺の楽校「お魚図鑑」「鳥図鑑」「昆虫図鑑」 ポケット図鑑「日本の鳥300」
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程第1表の中に、「持続可能な発展のための教育（ESD）」を推進する。」ことを明示するとともに、第2表で「体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れた指導方法を工夫し、授業改善を図り、学ぶ楽しさを実感させるとともに、生涯にわたって学び続ける態度を育てる。」こととしている。これをもとに、日々の授業を振り返り、児童が主体的対話的で深い学びで取り組めるよう指導方法の改善を図るとともに、年2回授業改善推進プランを策定し、学校全体で推進している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌の1つとして、管理職をはじめ、主幹2名と環境教育担当、総合的な学習担当でユネスコスクール推進委員会を設置している。学期1回定期的に打ち合わせを行い、取組状況や問題点などを確認し、対応について話し合いを行っている。必要に応じて、ユネスコスクール推進委員が中心となり、地域との連絡・調整も行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年に2回、授業における改善点を明らかにして、改善プランを作成している。また、年に1回学校評価を行い、学校全体で次年度取り組んでいく方向性を明確にしている。外部に対しては、授業参観時に保護者アンケートをとるとともに、年1回学校アンケートを実施し、評価を行っている。さらには、学校評議員会を開いて、学校の取組について説明している。環境や防災への取組は高い評価を得ているが、児童の対話的な学びが少ない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD の取組に対しては、学校便りを中心に地域に対して行ってきた。昨年度より、学校ホームページが市内で統一された形式になったので、今後は、ホームページを充実させ、ESD として取り組んだ内容を積極的に発信していくようにする。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

環境では、多摩川漁業協同組合、調布水辺の楽校、東京都水道キャラバンの協力を得ながら活動している。  
そのほか、食育ではJA、防災では、地区協議会と連携しながら活動を進めている。  
さらに、他の団体との連携を図る必要がある。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内のユネスコスクールでは、メールでの情報交換を行っているが、直接的な交流は行っていないので、今後は、他校との交流・ネットワーク形成を進めていくことが課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

「チャレンジ多摩川」「防災」「食育教育」とも、地域と連携することで成り立つ活動である。児童は、地域の方々と一緒に活動することで、自分の住んでいる地域の素晴らしさを再発見するとともに、地域との深いつながりがあることに気付くことができた。また、地域にある自然を守ろうとする心情も育ってきている。児童は、地域を大切にしようとする意識が高まってきている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

① チャレンジ多摩川(環境教育)

多摩川流域の学校として、4年生が総合的な学習『チャレンジ多摩川』として取り組む。多摩川のフィールドワークに出かけ、植物・昆虫の観察、川原の石調べ、水の中の生き物（ガサガサ）、バードウォッチングなどを行い、自然の素晴らしさと環境を守ろうとする心情を育む。

② 調布市防災教育の日(防災)

「自らの命は自らが守る」という意識を高めるために、防災に関する授業を行うとともに、地域と連携して防災の意識を高めていく。

③ 地域と連携した食育教育

地域の農家の方やJAに協力いただき、米作りや野菜作りを行う。自然の仕組みと食の関係について学ぶとともに、食と健康の関係や食の安全に関する意識を高める

その他の様々な活動を通して、実生活に生かせる多様な見方や考え方を育成するための「持続可能な発展のための教育（ESD）」を推進する。